

## 海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：工学部

学年：4年

留学先大学：ENSCI – Les Ateliers

現在の学期：1セメスター

時間割：9月は通常の授業はなく、Welcome week と2度の Intensif（集中講義）が開講される。履修は現地の留学担当の方がメールでシラバスや履修方法を送ってくれるため、案内に従って履修を希望する授業（それぞれ第三希望まで）の表を送る。8月の最終週にオンラインミーティングを行い最終的な希望を決定する。

その後、大学側が学生の振り分けを行う。このとき、必ずしも第一希望が選ばれるわけでは無いので、希望を出す場合はどの授業になっても良いようにするのが吉。

オンラインミーティングでは自分がENSCIでどの分野について学びたいかをまず聞かれる。この時の回答に沿って大学側が授業を振り分けるので、何をしたいのかを明確にしておく必要がある。

曜日	履修科目名・時間等
月	
火	9:00 ~ 12:30 : Weekly Class “Carnettiste” 14:00 ~ 18:00 : Atelier de Projet “Respirer”
水	9:00 ~ 13:00 : International Studio: Drawing Parisien Heritage
木	14:00 ~ 18:00 : Atelier de Projet: “Respirer”
金	9:00 ~ 13:00 : Atelier de Projet “Respirer” 14:00~18:00 : Atelier de Projet “Respirer”
土・日	

履修科目や近況について

9月の第1週はウェルカムウィークで、これから受講する授業のガイダンスや、大学の施設紹介等がありました。留学生はガイダンスを事前に受けていたのである程度の内容は理解していたのですが、いきなり全てフランス語での説明だったので圧倒されてしま

いました。ウェルカムウィークでは毎朝パンとコーヒーやオレンジジュースが用意され、皆朝食をとりながら話を聞いていたのがとても新鮮でした。

9月の第2週は新入生のみで行われるワークショップに参加しました。今年のテーマは「Banquet」、フランスの伝統的な文化の一つである Banquet（家族や友人たちで集まってご馳走を食べる行事）を、各班で設定したテーマに沿って再構成するというワークショップです。一口大のおつまみと、それを展示する台をローテクノロジーで作ることが目標でした。私が日本にはお通夜という文化があり、それが「Banquet」に近いかもしれないと言うことを伝えると、班のメンバーがとても興味を示してくれ、「お葬式」というテーマで進めることとなりました。レシピ班と展示台班、型作り班に分かれて作業をし、私は展示台班としてライスペーパーで巨大なお皿を作成しました。レシピ班の作ったおつまみは非常に人気で、一番早くに無くなっていたのでグループのメンバーとして非常に誇らしい出来事でした。

Intensif という集中講義が9月に2回開講されます。第1回目に私は Atelier Numerique という MAX MSP と Arduino を用いたプログラミングの講義に選ばれました。この講義ではプログラミングソフトでミニコンサートを作りました。日本にいるときに Arduino を少しは使ったことがありましたが、MAX MSP は全くの初体験で初めはとても不安でした。そんな中でも AI を活用したり、友人と協力しながら進めていき、なんとか完成させることができました。授業ではペアを作って制作を進めていくのですが、ペアの学生の行動力が凄まじく、とても刺激になったのと同時に、自分のやりたいことを伝え、表現することの難しさを痛感する授業でした。最終的には周りの学生たちからとても高い評価をもらい、フランスでもやっていけると自信を持つことができたのでよかったです。

9月20日と21日はヨーロッパ文化遺産の日で、パリにある普段は公開されていない建物の中に入ることができるという日です。この週末はおよそ1500を超える建物が公開されます。その中でも私は Senat（元老院）、Sorbonne Universite（ソルボンヌ大学）、Mobilier National（フランス国立家具協会）の3つを訪れました。フランスでは日本の国会に相当する建物が国民議会（日本での衆議院に相当）と元老院（日本での参議院に相当）で分かれていることが特徴で、そのうち元老院を訪れました。元老院は元々宮殿であった建物を流用しているため、調度品などは国会とは思えないような豪華なものになっていました。ソルボンヌ大学はとても歴史のある大学で、大学の中に大きな教会があるなど、日本の大学とは大きく違っていました。国立家具協会ではこれまでにフランスでデザイン、製造された家具の傑作たちが保管されており、中にはすでに焼失してしまった宮殿に置かれていた調度品も保管されていました。この建物では保管だけでなく、修復も行われており、実際の修復風景も覗かせてもらい、クラフツマンシップを理解する上でとても良い経験になりました。

第2回目の intensif に私は Filmer l'Usage というドキュメンタリーを制作する授業に選ばれました。この授業ではパリの街における公共物の利用のされ方についてドキュメンタリーを作るというものでした。私たちのグループではストリートスポーツに注目し、

スケートボード、ダンス、ストリートワークアウトの3つを映像に収めました。この授業ではドキュメンタリーを作る上での編集の大変さ、そしてどのように編集をすれば自分たちの持つ映像素材の魅力を人に伝えられるのかといったことを学びました。日本では一回も映像作品を作ったことがなかったのでとても良い機会になりました。

10月からはメインの授業たちがスタートします。一つは Atelier de Projet と呼ばれる授業で私はサル・ペトリエール病院とのプロジェクトを選択しました。この授業では病院で使用される酸素マスクを新しく考えます。10月は病院を訪れたり、まずリサーチをして自分が気になる課題点を洗い出します。二つ目は Weekly class です。私はパリの街を回って絵を描く授業を選択しました。この授業はとてもゆるく楽しく絵を描いています。三つ目は Studio です。この授業でも私は外で絵を描く授業を選択しました。この授業では Weekly Class よりもさらに技術的な面からスケッチ、デッサンにアプローチをし、空間をどのように画面に落とし込むのかを学びます。

現在は ENSCI と ENSAD (アール・デコ) の二つの大学の合同サッカーチームに所属し、毎週のトレーニングや試合への出場を通して現地の学生と交流しています。

週末は留学生同士でパリを散策するなどして過ごしています。



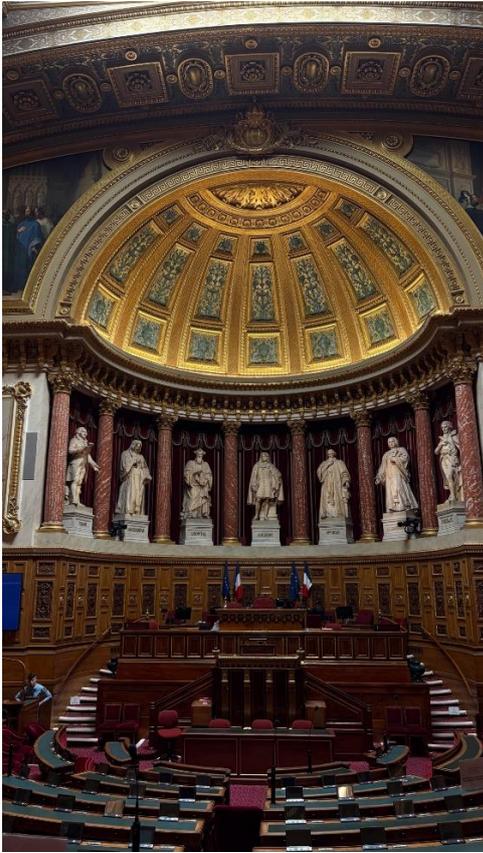
Welcome Week



9月はテラスで休憩するのに最適な季節、大きな天窓から見える空も好きなポイント



Intensif2 “Atelier Numerique”



Sénat (元老院)



Sorbonne Université, Mobilier National



授業後によく訪れる Place des Vosges (ヴォージュ広場)



Intensif2 “Filmer l’Usage”



Atelier de Projet でリサーチのために訪れたサル・ペトリエール病院



秋のパリ、外で絵を描くことがリフレッシュになって良い



サッカークラブに参加